

# 第75回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会

□大会第10日目 9月21日(水)

準々決勝	仙台市民球場	1時間 20分			打安点盗犠四三残失併
石巻工業	0 0 0 0 0	0	0	0	【石】 17 4 0 0 0 1 8 3 2 0
仙台育英	2 3 4 4 X	13			【仙】 23 12 13 5 1 6 0 5 0 1
(球)	佐藤 拓哉 (一) 野田 学 (二) 毛利 晃 (三) 細川 和行	( 5回コールド )			▽本塁打 濱田 (仙)
【石】	佐々木源, 村松, 木村, 永沼, 佐々木蒼 一 及川				▽三塁打 なし
【仙】	仁田, 湯田, 田中 一 尾形, 永田				▽二塁打 なし (石)
▽暴投	木村1 (石), 永沼1 (石)	▽捕逸	なし		湯浅, 齋藤敏, 住石 (仙)

【評】  
夏春連覇を目指す第1シードの仙台育英と10年ぶり準々決勝に勝ち上がった石巻工業の対戦となった。仙台育英は仁田, 湯田, 田中と継投し強力な石巻工業打線を4安打と抑えた。攻撃では足を絡めた攻めで各イニング得点を加え、4回の攻撃では満塁のチャンスで代打出場した濱田が本塁打を放ち勝利を呼び込んだ。石巻工業も3回の攻撃で1アウト1, 2塁のチャンスを作るものの、仙台育英の固い守備に阻まれ得点を挙げることができず敗北した。

準々決勝	石巻市民球場	2時間 46分			打安点盗犠四三残失併
仙台第三	0 0 0 3 0 0	5	0	0	【南】 39 13 7 2 2 3 6 9 2 0
仙台第三	1 2 0 1 0 0	3	1	1X	【三】 33 11 8 7 3 11 3 14 4 0
(球)	森山宏則 (一) 三浦 徹 (二) 沼辺力也 (三) 高橋弥寿仁				▽本塁打 なし
【南】	佐藤和, 奥村, 佐藤和 一 成田				▽三塁打 佐藤斗, 佐藤和, 今野, 石田 (南), 尾形 (三)
【三】	道祖尾, 近藤, 尾形 一 熊				▽二塁打 熊澤, 佐藤和 (南)
▽暴投	近藤1 (三), 佐藤和1 (南)	▽捕逸	なし		尾形 (三)

【評】  
仙台第三がサヨナラで接戦を制し、準決勝へ駒を進めた。仙台第三が初回バークで先制。2回にも2点を加え、このまま突き放すかに見えたが、仙台南が4回表に3点を取り、同点に追いついた。仙台第三はその裏すぐに1点を取り返し再びリードを奪ったが、仙台南が7回表に三者連続三塁打など一挙5点を加えて逆転に成功した。しかし、粘る仙台第三は7回に3点、8回に1点を加えて同点とし、9回裏2四死球と尾形の安打でノーアウト満塁とし、最後は本郷のヒットパイピッチでサヨナラ勝ちを取めた。

準々決勝	石巻市民球場	1時間 26分			打安点盗犠四三残失併
仙台第二	0 0 0 0 0	0	0	0	【仙】 17 3 0 0 0 0 2 2 3 0
東北	4 2 4 4 X	14			【東】 21 9 13 3 2 7 4 4 0 1
(球)	山館浩樹 (一) 太田博昭 (二) 浅野卓也 (三) 佐々木瞭太	( 5回コールド )			▽本塁打 佐藤玲蒔 (東)
【仙】	引地, 湯浅, 本田 一 星				▽三塁打 なし
【東】	秋本, 鈴木, 佐藤玲蒔 一 日隈				▽二塁打 なし (仙)
▽暴投	湯浅1 (二)	▽捕逸	なし		佐藤響 (東)

【評】  
東北が投打で圧倒し、5回コールドで準決勝へ駒を進めた。東北は初回、連打と相手のエラーでチャンスを作るとショートゴロの間に先制。その後も2回に2点、3回に4点と追加点をあげた。4回には四球・失策・安打で満塁を作るとランニングホームランで4点を加え突き放した。守っては、3人の投手の継投と、無失策の守備で無失点とした。

準々決勝	仙台市民球場	1時間 48分			打安点盗犠四三残失併
柴田	0 0 0 0 0 0	0	0	0	【柴】 31 4 0 0 2 3 7 9 1 1
利府	0 0 0 0 0 1	0	0	X	【利】 30 9 1 3 2 3 4 10 2 0
(球)	菅原 幸 (一) 西山 充 (二) 新田 健治 (三) 布田 秀斗				▽本塁打 なし
【柴】	阿部 一 藤田				▽三塁打 なし
【利】	菅我 一 太田				▽二塁打 中畑 (柴)
▽暴投	なし	▽捕逸	なし		なし (利)

【評】  
共に春のセンバツ甲子園出場経験を持つ公立の実力校同士の対戦は、利府が柴田を1対0の僅差で下し準決勝へとコマを進めた。この試合、前半の5回までは、お互いにチャンスを作りながらも両先発投手が要所を締めてスコアレスのまま後半戦へ。迎えた6回の裏、利府は二死二塁の場面で投手の曾我が自らのタイムリー安打で1点を挙げ、投げた柴田高の打線を散発の4安打に抑え、7奪三振の好投で完封勝ちをおさめた。一方の柴田高校も、先発の阿部連が8回1失点と好投したが、味方打線が援護できず悔しい敗戦となった。